短期予報解説資料　２０２６年１月７日１５時４０分発表

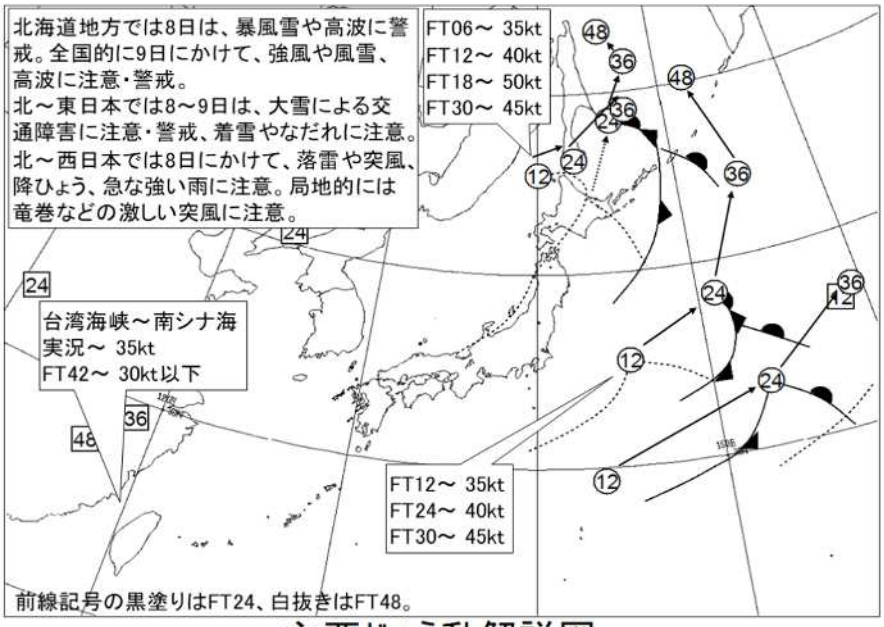
気象庁

１．実況上の着目点

① 500hPa 5280m付近に-36℃以下の寒気を伴うトラフが日本海西部にあって、東進。トラフに対応して、日本海北部に前線を伴った低気圧があって、発達しながら東北東進。日本海では雷を検知し激しい雨を解析。

② 500hPa 5520m付近に-30℃以下の寒気を伴うトラフが四国の南にあって、東進。周辺では雷を検知。

③ 大陸に高気圧があって、東シナ海へ張り出している。この高気圧の縁辺、および①の前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風が吹き波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、急速に発達しながら北東進し、7日夜は北日本へ進み、前線が8日にかけて北～西日本を通過する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～西日本では8日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項②のトラフは、7日夜は日本の東へ進む。上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。東日本太平洋側では7日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

③ 2項①の低気圧は、8日はオホーツク海へ進み、1項③の高気圧が日本付近へ張り出し、日本付近は8～9日前半は冬型の気圧配置が強まる。850hPaで北日本には-12～-18℃、東日本には-9℃前後の寒気が流入し、降雪が強まり大雪となる所がある。北～東日本では8～9日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれに注意。なお、9日後半は日本の東で高気圧が顕在化し、冬型の気圧配置は緩む。

④ 1項③の高気圧の南縁、および2項①～③の前線や低気圧、冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高く大しけとなる所がある。北海道地方では8日は、暴風雪や高波に警戒。全国的に9日にかけて、強風や風雪、高波に注意・警戒。

３．数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］

① 雨量(18時からの24時間)：多い所（100mm以上）はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：東北70、北陸50、北海道・東海40、関東甲信30cm。

③ 波浪(明日まで)：北海道6、東北5、その他広い範囲で3～4m。

④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では、注意報基準を超過する所がある。

５．全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。